荒川区　花の木ひろば館

小中学生等のボランティアの育成

取組の背景・目的

子どもがボランティアとして活動する場を設けて、ひろば館や地域で自発的に活動ができるように支援する。子どもが成人になっても継続して活動できるよう、地域の方もひろば館の活動に積極的に参加できるような機会を設ける。職場体験や施設実習の受入れなども行う。

① 小中学生のボランティア育成

乳幼児事業に小中学生がボランティアとして参加をし、乳幼児とふれあう体験を通して、ボランティア活動への理解や思いやりの心を育てる。

② サマーボランティア受入れ

館行事にサマーボランティアが参加する事によって、館で活動している多世代の事業協力者との交流を通じて、ボランティアとしての意識を高める。

※サマーボランティア…ボランティア活動に興味を持つ児童及び学生等に活動の場を提供し、多くの人たちとの交流を通じて新たな自分を発見してもらう事を目的とした、社会福祉協議会主催の体験プログラム。

取組の概要

① 乳幼児と小中学生の交流タイム

- 実施日　：夏休み期間中の毎週水曜日　午前 10 時 15 分～11 時 30 分
- 実施場所：遊戯室（4 階）
- 職員体制：３名
- 実施内容：小中学生ボランティアは、乳幼児タイムに入り、受付・進行を手伝ったり、手遊び・紙芝居を実施して交流する。

② ボランティアウィーク

- 実施日　：令和４年８月 29 日（月）～9 月2日（金）午後２時００分～4 時 30 分
- 実施場所：各部屋（1 日 1～2室）
- 職員体制：各部屋１名
- 実施内容：サマーボランティアは、事業協力者が実施する活動（読み聞かせ、卓球等）にひろば館利用児童が体験する際に、受付や誘導、進行の手伝いをする。

工夫点・留意点

① 小中学生ボランティア
- 事前に近隣小中学校（４小学校、２小学校）に募集チラシを配布し、ボランティア保険に加入する。
- 説明会を開き、乳幼児親子への配慮、安全、健康管理等を説明する。
- 小中学生は、手遊び、紙芝居等の練習をして、主体的に取り組む。
- 参加乳幼児親子には、小中学生ボランティアが参加する事を周知し理解をしてもらう。
- 活動自体が密にならない様、消毒・換気・定員等を配慮する。

② サマーボランティア
- 社会福祉協議会に、１日あたりのボランティア数を決めて依頼をする。
- 説明会を開き、活動内容、安全、健康管理等を説明する。
- 事業協力者に、サマーボランティアについて説明する。

取組の効果

① 小中学生ボランティアは、乳幼児親子と交流する事によって小さい子をかわいいと感じたり、手遊び・紙芝居を発表する体験を通して自己肯定感を高めた。

② サマーボランティアは、行事の受付や説明等、担当した役割を主体的に取り組んだ。４回活動があり、継続する事により自分で創意工夫をして積極的に活動を行った。

③ 交流タイムに参加した乳幼児は、小中学生との交流を楽しんでいた。乳幼児保護者は、普段接する事が少ない小中学生と交流する事によって、子育ての先の見通しがもてたり、小中学生と話す事によって自らの子育ての再確認をしていた。

④ ボランティアウィークでは、事業協力者とひろば利用児童の間に、サマーボランティアが受付や対応をしてくれる事によって、親しみやすい活動となった。

⑤ 事業協力者は、サマーボランティアが積極的に取り組む事によって日常活動とは一味違った活動が出来、良い刺激となった。

課題・今後の展開

- コロナ禍で多世代間での交流が制限される中、小中学生ボランティアにとって、乳幼児親子と触れ合う良い経験となるので、継続していきたい。
- ボランティア活動は、ボランティア本人も、相手である乳幼児親子、児童、事業協力者も、お互い双方向に良い刺激を受けるので、このような機会を継続していきたい。
- 改めて、児童館は多世代が集う出会いの場であることを再認識し、そのような場の提供が大切である事を再確認する。